

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	センターキッズ			
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日 ～ 令和7年10月17日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	69名	(回答者数)	37名
○従業者評価実施期間	令和7年9月3日 ～ 令和7年9月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	19名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月4日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療法師(言語聴覚士・作業療法師・理学療法師)が多く在籍しており、すべてのお子さんに対し、療法師自身が療育プログラムを実施している。	・日々の支援について、担当の療法師が、発達評価担当者や、他職種スタッフに相談できる環境である。 ・実践の質の向上を図るために、内部研修を実施している。	・利用者さんや保護者さんのニーズを把握し、研修内容を検討する。
2	療育プログラムの内容について、計画性を持ちながらも、お子さんや保護者さんのニーズに合わせて、プログラムを提供している。	・保護者の方とも、日々情報を共有することで、お子さんの生活場面での困りごとにつながるようなプログラムを実施するようにしている。	・祖父母の方が送迎しておられる家庭など、直接保護者の方が来所しない場合の情報共有の仕方について、保護者の方のニーズに沿って対応していけるよう検討する。
3	事業所利用前の発達評価の結果や、プログラム内容を検討するために行う評価アセスメントの結果などを、必要に応じて、園や学校などと共有することができる。	・療育プログラムの見学について、案内している。 ・必要に応じて、所属先とも「お子さんについて情報共有する場」を設けている。	・生活場面でそのお子さんがどう過ごしており、どんなニーズがあるのか、把握する機会を検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所への通いづらさがある。	公共交通機関の利用がしにくい場所にある。	通所しやすい、曜日や時間について、定期的に家庭の事情について伺いながら、可能な限り調整する。 ご家庭が利用できる送迎サービスについて、継続して、情報収集する。
2	ご家庭のニーズに素早く応じにくい場合がある。	・利用頻度の少なさ、利用時間の短さ（2週間に1度、1回45分）	保護者の方のニーズを把握できるよう、療育担当スタッフだけでなく、他スタッフも関わる機会を検討する。 また、必要に応じて、療育プログラム以外の時間帯にも、話を聞くなどの工夫を行う。
3			